

子どもの学びを深め、広める ～ 協力隊の経験からいかせる教育活動 ～ ネットライブ授業

関野 貴之

(15-1 , バヌアツ , 小学校教諭 , 秦野市立鶴巻小学校)

1、教師としてできること

小学校6年生社会の後半では、「国際社会の中の日本」といったような単元を学ぶ。それは、学習指導要領の内容にもある「我が国の国際交流や国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働き」に由来する。今年度、6年生を担当している。指導要領を念頭に置きながら、教科書をべらべらとめくると、社会の教科書下巻には「国際」をイメージさせる多くの写真が掲載されている。授業の流れとして考えられるのは、「教科書の写真を見ながら子どもが感想を言い合い、教科書を読む。」「子どもが図書室やインターネットを駆使して、世界の国々を調べ、日本との関わりや日本がどのように貢献しているかをまとめ、発表する。」「新聞から国際的な時事問題を取り上げ、学級で話し合う中で学習内容を網羅する。」などであるが、多くの教師は苦労をする。

教師は、子どもを指導する中で、子どもと共に学び、一緒に考えていくことができる。そうすることで、子どもが学習することを推進させる。だが、世界に目を向けて学習を展開することは、子どもだけでなく教師でも難しいであろう。それは、教師自身も世界を知らないことが多いからである。

2、派遣現職教員だからできること

派遣現職教員の強みは、なんと言っても経験である。協力隊は、誰もが自負する経験を積んできている。様々な条件から誰もが参加できるわけではない。また、厳しい環境から誰もが成功し、無事に任期を終えることができるわけでもない。その協力隊に参加した教師が日本の教育現場に戻り、その経験を生かす場は少なくないはずである。

教師同士の研修の場、PTA 総会での活動報告、これから参加される方への実践報告、やはり一番は、子どもの学習活動範囲を広く受け止めることができる。裏返せば、授業を大きく展開できるのである。それは、派遣現職教員の話に説得力があるからである。経験を基にした言葉には伝える力があるだろう。教科書に載っている協力隊の人々が担任の先生であるというだけで、子どもの関心は膨れ上がる。前述したような授業以上のことができる。

3、インターネット・ライブ授業

(1) きっかけ

前置きが長かったが、上記のことが根底に流れていたということを知っていてほしい。さて、インターネット・ライブ授業を行っているきっかけとしては、「日本に経験を還元したい」「子どもに世界を伝えたい」と常に思っていたことから始まる。ただ、どのような形をとるのかを探っていた状態である。

そんな時、これから参加される方への報告会に顔を出したこともあり、筑波大学教育開発国際協力研究所センターの方からインターネット・ライブ授業をしないかとお誘いがあった。なぜ、僕なのか？ 主な理由は2つ。「バヌアツと日本の時差が2時間しかない」「バヌアツ派遣現職教員が過去・現在共にいる」ことであろう。

しかし、学ぶのは教員ではなく、大人でなく、子どもである。教員の想いも大切だが、どうやって子どもの学びに沿う形でインターネット・ライブ授業をするのかが初めの課題であった。

(2) 活動内容

1回目 (2005.7.12)

年度当初立ち上げた総合的な学習の学級プランは「キャンプをしよう！」である。「自然」「昔の暮らし」「野菜」「外国の料理」「星座」の5グループがキャンプに向かって活動する中で学びを展開する。

その中、「外国の料理を調べ、キャンプで食べたい！」という想いを持った子どもがバヌアツに興味を持ち始めた。担任が3月までバヌアツにいたのだから、自然な流れである。ただ、調べたい内容を担任に聞くだけでは学びが深まらない。担任にも限界がある。全てを話せないし、見せきることができない。伝えきることもしない。そこで、インターネットを使って、バヌアツと交流ができるかもしれないということを伝えてみたところ、半数の子どもの反応は良かったものの、残りの半数は、よく分からないようであった。このような学習形態を経験したことがないので、想像しがたかったのであろう。

まず、考えたのは「めあては？」「どんなことをしようか？」「どんなことができるか？」である。話し合いの末、出てきた子どもの想いは、まずは「日本のことを知ってもらおう！」(写真1)「バヌアツのことをもっと知りたい！」ということである。その先に、バヌアツの料理を視野に入れながら活動できたことは、立派であった。突然、核心を突くよりも、交流をして、親しんでからの方が良いと判断したのである。

子どもの想いと、担任の想いをすり合わせていくことが一番難しかった。子どもは自由な発



写真1 日本のことを知ってもらおう

想をする。担任にもやってみたいこと、子どもに学んでほしいことがあるからである。その上、ハード面でも壁があった。細かいことは後に記すが、準備に時間がかかる。学校現場で

は、まだまだ環境が整っていないからだ。

当の子どもはというと、「あんなに離れているのに、そんな気がしなかった」と言うように、手紙でも、電子メールでも、ビデオレターでもないような感想がいくつも出てきた。また、さらに聞きたいこと、伝えたいことが増え、次への意欲を高める結果が出た。子どもが自ら課題を持ち、解決していこうとする姿は、教員としてうれしいものであった。

2 回目 (2005.9.29)

「次はいつできるの?」と多くの子どもが意欲を持ったのと同時に、この活動の焦点をどこに置くのか、目的はなんなのかがぼやけてきた。一度、経験してしまえば、ものめずらしさは消える。そこで、この課題を子どもにぶつけてみた。「時間は限られている」「この授業で何を知りたいのか? 学びたいのか?」など。すると、子どもから食文化というキーワードが出てきた。食文化について、もっと交流をしたいということになった。これが決まってしまうと、進むことは難しくない。PTA のお祭りでの出店もあり、カルメ焼きを作ってみせることを中心にしようということになった。

今回は、環境面で苦労することはなかった。子どもでもタイピングすることができ、さらに、子ども主体の活動になった。(写真2) どうやったら、離れたバヌアツに伝えることができるかを考え、実物を見せながらクイズ形式でのやりとりにした。「カルメ焼きが膨らむ瞬間をバヌアツのみんなに見せたい!」という想いから、学級がまとまり、達成した瞬間の拍手は何とも言いがたい感動を生んだ。

バヌアツからは、ブッシュナイフを使っている様子を見せてもらった。(写真3) 暗いニュースが多い日本では考えられないような大きなナイフを紹介するかどうかは、現地の派遣現職教員や僕らも事前に検討した。バヌアツでは生活必需品のブッシュナイフ。大きさが問題なのではなく、使い方が問題なのだという事を伝えたかったこともあり、交流に加えられた。このような配慮も文化が違う国同士では必要になってくる。



写真2 子どもがタイピングをする



写真3 ブッシュナイフの紹介

(3) 成果

クイズ形式でバヌアツから紹介された現地料理「シンボロ」は、実際にキャンプで食べるために、子どもが実際に自宅で作ってみるということまで発展した。もう一つの料理「ラッ

クラブ」も試しに作ってみたところである。子どもが家庭に戻っても、学校活動以外でも、「さらにやってみたい！」「もっと学びたい！」となれば、この活動は成功ではないだろうか。

インターネットを使つての授業は、子どもの活動をダイナミックにし、気持ちの距離を短くさせる。映像が初めてやってきたときの感動は今でも残っている。(写真4)また、次への意欲を芽生えさせる。誰かに言われたからするのではなく、自分がやりたいので活動する。この学びの方法が学校教育の選択肢の一つとして加われば、やり方によっては、子どもでも、大人でも大きな成長につながる。

また、世界の中の日本という立場では、視野が広がるだけでなく、その国に親しみを感じ、「地球に生きている我ら」と捉える足がかりになろう。子どもの感想では、「教室の大きさは日本と同じぐらいだし、制服まであった」と、イメージとの格差がなくなったことがうかがえた。同じ人間、同じ小学生であるが、違った環境に住んでいるだけなのかもしれない……。こういった国際理解・異文化理解だけでなく、自分の価値観と向き合つて考えるきっかけになったかもしれない。



写真4 映像がある感動

(4) 課題

ハード

やはり、インターネットを充分使える環境が必要である。そもそもインターネット自体、使うことが難しい環境との交流である。いくら日本側の設備が良くてもあきらめざるを得ないかもしれない。だからと言って、あきらめてはいけない。

逆に、日本でも地域によって、学校によって、IT環境は違う。今回、市の規定により、我が校のインターネット回線を使うことができなかった。セキュリティーが主な原因である。チャット自体はできるのだが、映像をやりとりするまで回線速度を上げることが難しかった。これから推測するに、全国、いつでも、どの学校でもできるわけではないと言えよう。また、PCにも高いものが要求される。今回は、個人用のものを使わざるを得なかった。

学習効果

子どもの成長を見る限り、様々な学習形態の一つとして、授業に取り入れられるべきであろう。しかし、子どもの成長をどこで評価するかは、総合的な学習の時間を評価するのと同じようにやさしくないものである。日常的にインターネット・ライブ授業が可能になれば、目新しさの範囲から越えて、さらに学びを深めることができよう。そのためには、もっと多くの実践が行われ、公に検討し合う必要がある。

今後の展開

この授業を始めるに当たって、一度では、ただ舞い上がって終える授業になってしまうよ

うな気がしていた。案の定、2回目の授業を終えている今、1回目とは比べられないほど、落ち着き、学習が成立しているようである。今年度中に3回目の授業を行いたいと子どもも、担任も考えているが、相手国の事情、主に日程の設定と派遣現職教員の入れ替わりにより、困難になってきている。

4、そして

この実践は、まだ未熟である。重なる試みにより、さらに大きな学習活動へ展開できることから、我々の挑戦も終えてはいけないだろう。このような実践を伝え、いつでも、どこでも授業として行えるようになれば、みんなの学びとなり、国際理解・異文化理解など、子どもの成長へとつなぐことができるのである。日本も、世界も成長するように教育活動を進めよう。

子どもの学びを広め、深める

～協力隊の経験からいかせる教育活動～
ネットライブ授業

神奈川県秦野市立鶴巻小学校

教諭 関野貴之

15 - 1 バヌアツ 小学校教諭

2006.1.7

1

バヌアツはどこ？

このへん

2006.1.7

2



2006.1.7

3



2006.1.7

4

教師としてできること

- 一緒に考える

2006.1.7

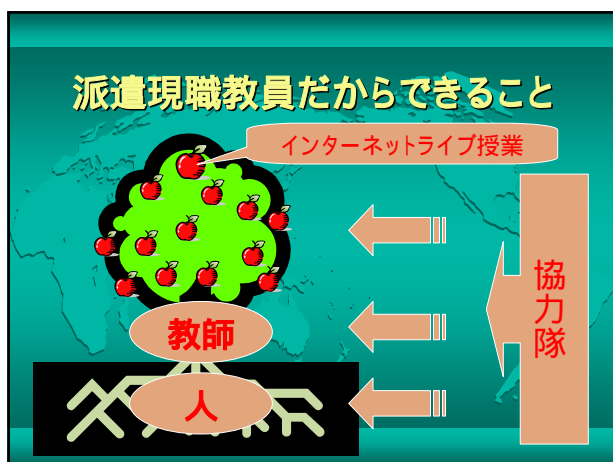
5

派遣現職教員としてできること

- 一緒に考える
- 経験を伝える

2006.1.7

6



🍎 インターネット・ライブ授業

1. きっかけ
2. 活動内容
3. 成果
4. 課題

2006.1.7 8

1. きっかけ

- 日本に還元したい
- 子どもに伝えたい
- 筑波大学からのアプローチ

2006.1.7 9

2. 活動内容

- どんな形の活動にしようかな？

総合「キャンプをしよう！」

自然 音の暮らし 外国の料理 野菜 星座

<担任の想い> 紹介 <子どもの想い>

「バヌアツのことが知りたいな！」
「関野先生が行っていたバヌアツの料理ってどんなの？」
「日本を紹介しよう！」

2006.1.7 10

2. 活動内容

- ライブ授業のめあては？
- どんなことしようかな？
- どんなことができるかな？

日本を知ってもらおう！
バヌアツのことをたくさん知りたい！！

2006.1.7 11

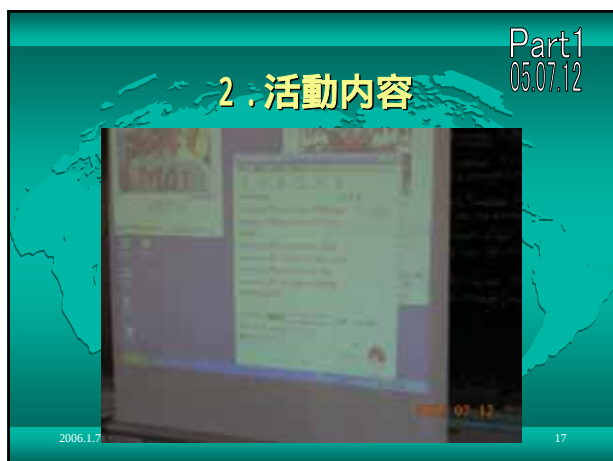
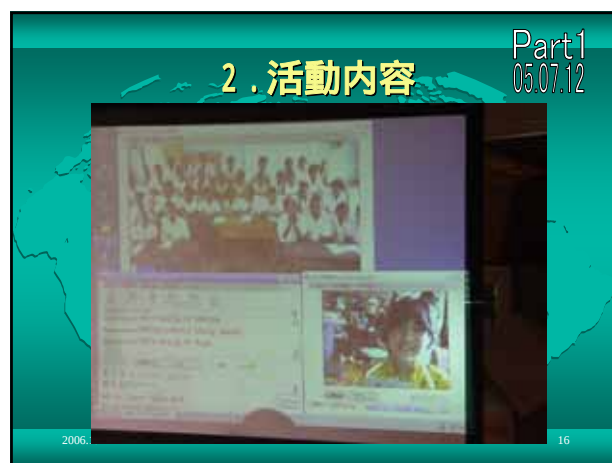
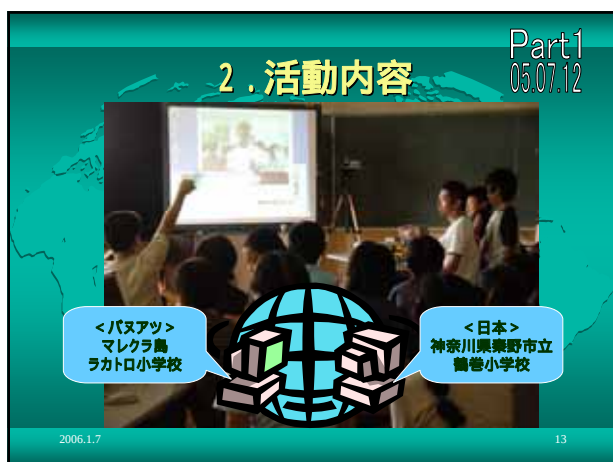
2. 活動内容

準備

- 交流先の決定
- 日程決定
- 指導案作成
- 電子メールでの調整
- インターネットの環境整備
- 子どもの願いとの兼ね合い

Part1
05.07.12

2006.1.7 12



Part1
05.07.12

2. 活動内容

- 自己紹介をし合う
- 日本紹介をする

2006.1.7 19

Part1
05.07.12

2. 活動内容



2006.1.7 20

Part1
05.07.12

2. 活動内容



2006.1.7 21

Part1
05.07.12

2. 活動内容

- 自己紹介をし合う
- 日本紹介をする
- バヌアツを紹介してもらう

2006.1.7 22

Part1
05.07.12

2. 活動内容



2006.1.7 23

Part1
05.07.12

2. 活動内容



2006.1.7 24

Part1
05.07.12

- 2006 1 7

Part1
05.07.12



Part2
05.09.29

日本にある食べ物をクイズにしよう！
カルメ焼きが膨らむ瞬間を見せよう！
キャンプで作る食べ物の
ヒントを見つけよう！

Part2
05.09.29



Part2
05.09.29

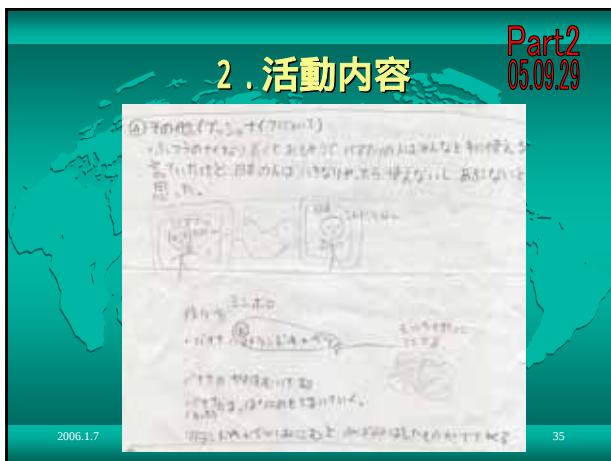
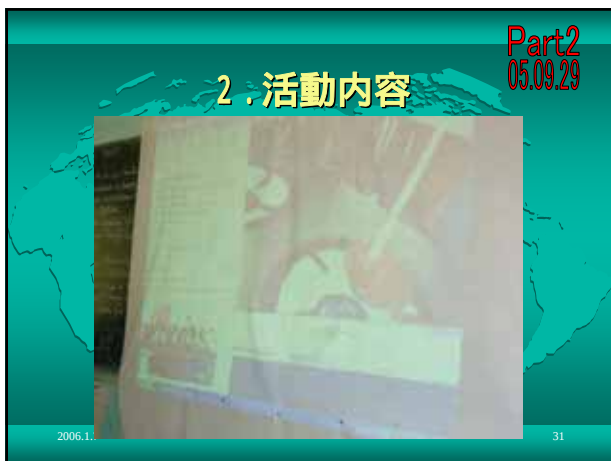


29

Part2
05.09.29

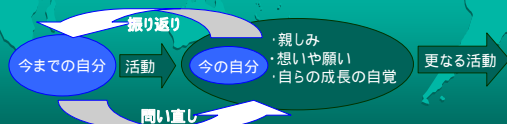


30



3. 成果

- 親しみが強くなる・身近に感じる
- 自分の想いを持つ
- ダイナミックな活動を展開する
- 次への意欲を高める



2006.1.7

37

3. 成果



2006.1.7

38

3. 成果



2006.1.7

39

3. 成果

- 親しみが強くなる・身近に感じる
- 自分の想いを持つ
- ダイナミックな活動を展開する
- 次への意欲を高める
- 自分の価値観と向き合う

2006.1.7

40

4. 課題

- ハード面 → 適した環境作り
- 学習効果 → 学びとするには
- 今後の展開 → 日程の設定

派遣現職教員の入れ替わり

2006.1.7

41

そして・・・

- チャレンジしていきたい
- 伝えていきたい



誰もができる授業
みんなの学び

2006.1.7

42



2006.1.7

43

子どもの学びを深め、広める
～ 協力隊の経験からいかせる教育活動 ～
ネットライブ授業

15 - 1 バヌアツ

神奈川県秦野市立鶴巻小学校教諭 関野貴之

1、教師としてできること

2、派遣現職教員だからできること

3、インターネット・ライブ授業

（１）きっかけ

（２）活動内容

1 回目 (2005.7.12)

2 回目 (2005.9.29)

（３）成果

（４）課題

ハード

学習効果

今後の展開

4、そして